

インフルエンザ予防接種説明書

インフルエンザワクチンの予防接種を受ける前に必ずお読みください。

インフルエンザHAワクチン(皮下接種)について	P.1
経鼻弱毒生インフルエンザワクチン(点鼻接種)について	P.2

インフルHAエンザワクチン（皮下接種）について

1. ワクチンの効果と副反応

予防接種により、インフルエンザの感染を予防したり、合併症や死亡を予防することが期待されます。

ワクチン接種に伴う副反応として、発熱や、駐車部位が赤くはれたり、硬くなったりすることがあります。発現頻度は、発熱は100人に数人位、赤くはれたりするのは10人に1人位です。ごくまれですが、次のような副反応を起こすこともあります。(1) ショック、アナフィラキシー（じんましん、呼吸困難、血管浮腫など）、(2) 急性散在性脳脊髄炎（接種後数日から2週間以内の発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識障害など）、(3) 脳炎・脳症、脊髄炎、視神経炎、(4) ギラン・バレー症候群（両手足のしびれ、歩行障害など）、(5) けいれん（熱性けいれん含む）、(6) 肝機能障害、黄疸、(7) 喘息発作、(8) 血小板減少性紫斑病、血小板減少、(9) 血管炎（アレルギー性紫斑病、アレルギー性肉芽性血管炎、白血球破砕性血管炎など）、(10) 間質性肺炎、(11) 皮膚粘膜眼症候群（スティーブンス・ジョンソン症候群）、(12) ネフローゼ症候群

2. 次の方は接種を受けないでください。

- 1) 明らかに発熱している人（37.5℃を超える場合）
- 2) 重い急性疾患にかかっていることが明らかな人
- 3) 過去にインフルエンザワクチンの接種を受けて、アナフィラキシー（通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のひどいじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと）を起こしたことがある人
- 4) その他、医師が予防接種を受けることが不相当と判断した人

3. 次の方は接種前に医師にご相談ください

- 1) 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気などの人
- 2) かぜなどの症状が出はじめたと思われる人
- 3) 薬の投与又は食事（鶏卵、鶏肉など）で皮膚に発しんが出たり、じんましんなどのアレルギーを疑う異常が見られた人
- 4) けいれん（ひきつけ）を起こしたことがある人
- 5) 予防接種を受けたとき、2日以内に発熱がみられた人及び発しん、じんましんなどのアレルギーを疑う異常がみられた人
- 6) インフルエンザワクチン以外の原因でアナフィラキシーを起こしたことがある人
- 7) 免疫異常を指摘されたことのある人、もしくは近親者に先天性免疫不全の者がいる人
- 8) 間質性肺炎、気管支喘息などの呼吸器系疾患のある人
- 9) 発育が悪く、医師の指導を受けている人
- 10) 妊娠している人

4. 接種後は次の点に注意してください。

- 1) インフルエンザワクチンの接種を受けたあと30分間は、急な副反応が起こることがあります。接種した医療機関に留まるなどして、様子を確認し、医師とすぐ連絡が取れるようにしておきましょう。
- 2) 接種部位は清潔に保ちましょう。接種当日の入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすことはやめましょう。
- 3) 接種当日はいつもの生活をしていただいてもかまいません。ただし、激しい運動は避けましょう。
- 4) 接種後、接種局所の異常反応や体調の変化があらわれた場合には、速やかに医師の診察を受けてください

経鼻弱毒生インフルエンザワクチン（点鼻接種）について

1. ワクチンの効果と副反応

本ワクチンはインフルエンザウイルスを弱毒化した生ワクチンです。接種後に体の中で増えたワクチンウイルスに対する免疫ができ、インフルエンザウイルスの感染を予防します。

一方、本ワクチンの接種に伴う副反応として、鼻閉・鼻漏、咳嗽、口腔咽頭痛、頭痛などがみられることがあります。また重い副反応としてショック、アナフィラキシー（じんましん、呼吸困難、血管性浮腫など）や、海外ではベル麻痺を含む脳神経障害、脳炎、けいれん（熱性けいれんを含む）、ギラン・バレー症候群（手足に力がいらない、しびれ、食べものが飲み込みにくい、呼吸が苦しいなど）、血管炎（発熱、頭痛、倦怠感、紫斑、紅斑など）などが報告されています。

2. 次の方は接種を受けないでください

- 1) 明らかに発熱している人（通常は37.5℃を超える場合）
- 2) 重い急性疾患にかかっていることが明らかな人
- 3) 過去に本ワクチンに含まれている成分で、アナフィラキシー（通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のひどいじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと）を起こしたことがある人
- 4) 明らかに免疫機能に異常のある疾患をお持ちの人、免疫抑制をきたす治療を受けている人
- 5) 経口または注射の副腎皮質ホルモン剤を使用している人
- 6) 妊娠していることが明らかな人
- 7) その他、医師が予防接種を受けることが不相当と判断した人

3. 次の人は接種前に医師にご相談ください

- 1) ゼラチン含有製剤またはゼラチン含有の食品に対して、ショック、アナフィラキシー（じんましん、呼吸困難、血管性浮腫など）などの過敏症を起こしたことがある人
- 2) 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患などの基礎疾患のある人
- 3) 過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性の発疹などのアレルギーを疑う症状がみられた人
- 4) 過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある人
- 5) 過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある人、または近親者に先天性免疫不全の人がいる人
- 6) 重い喘息のある人または喘鳴の症状のある人
- 7) 薬の服用または食事（鶏卵、鶏肉、その他鶏由来のもの）で発疹が出たり、体に異常をきたしたことがある人
- 8) 発育が遅く、医師、保健師の指導を受けている人
- 9) 妊娠中または妊娠の可能性のある人（接種前1か月間避妊していない人）、授乳中の人
- 10) サリチル酸系医療品（アスピリンなど）、ジクロフェナクナトリウム、メフェナム酸を服用している人

4. 接種後は次の点に注意してください

- 1) インフルエンザワクチンの接種を受けたあと30分間は、ショック、アナフィラキシー（じんましん、呼吸困難、血管性浮腫など）などの急な副反応が起こることがありますので、接種した医療機関に留まるなどして様子を確認し、医師とすぐ連絡が取れるようにしておきましょう。
- 2) 接種当日は過激な運動は避けてください。また、健康状態に十分注意し、体調の変化、高熱などの異常な症状を呈した場合には、すぐに医師の診察を受けてください。なお、接種当日の入浴は差し支えありません。
- 3) 妊娠が可能な人は、接種後2か月間は妊娠をしないように注意しましょう。
- 4) 接種後1～2週間は乳児や重度の免疫不全の人との接触を可能な限り控えましょう。